



第557号 令和6年12月1日
発行所 京都市学校医会
京都市中京区間之町通竹屋町下ル
楠町601-1 こどもみらい館2階
TEL (075) 256-0351
FAX (075) 241-3568
発行人 井本雅美

学校医のやりがいとは？

会長 井本雅美

11月9日に、宮崎市で第55回全国学校保健・学校医大会が開催されました。メインテーマは「未来ある子ども達のために、いま学校医ができること」であり、シンポジウムのテーマは「学校医の魅力、やりがいとは何か～現状と課題を踏まえて～」でした。その基調講演として、日本医師会学校保健委員会副委員長の弓倉 整氏が、今年5月に日本医師会から発刊された「学校医のすすめ～そうだったのか学校医」について、その発刊までの経緯や本の内容について講演されました。

全国的に、学校医のなり手が少ない、という問題があります。また、産業医と比べて学校医に対する情報は極めて少ないため、学校医の報酬、待遇などがよくわからず面倒そう、という印象をもたれていることも、学校医のなり手が少ない原因になっているという意見もあるようです。そのため、学校医の法的・倫理的・社会的意義について、読みやすくわかりやすい書籍を作成し、学校医の意義・職務内容など広く啓発に寄与したい、という目的で発刊されました。

日本医師会は1993年と2004年に「学校医の手引き」を発刊しており、前回2004年から20年振りの発刊です。2004年は、法律がまだ「学校保健法」であり(2009年より「学校保健安全法」)、感染症についても「学校感染症」ではなく「学校伝染病」でした。このような法的側面の変化に合わせることも必要だったのでしょう。

内容的には、20年前の「学校医の手引き」との継続性に留意し、既に各都道府県医師会で作成されている学校医の手引きのような詳細なものにはせず、

「読みやすく」「簡潔に」「学校医の魅力を発信する」冊子を目指されたということで、ページ数は150ページ(当初は100ページ以内目標)、手に取って全体に目を通しやすいボリュームと感じました。

弓倉 整氏の基調講演に続いて、4人のシンポジスト(小児科医、耳鼻咽喉科医、眼科医、養護教諭)がそれぞれの立場で「学校医の魅力、やりがい」について講演されました。

学校医のやりがいについては、日本医師会が2016年度に行った学校医の現状に対するアンケート調査の中で、「学校医の業務の中で感謝されたこと、やりがいを感じたことはありますか」の質問に対し、学校医(内科・小児科)の65.8%が「ある」、34.2%が「ない」という結果であり、今回のシンポジウムの発表では、耳鼻咽喉科学校医の43%、眼科学校医の38%がやりがいを感じていないという結果でした。

シンポジウムの質疑応答では、やりがいを得るためにもっと学校に出向いて学校医として講話の機会が欲しい、認定学校医制度を作るべき、報酬を上げるべき、さらには、健診内容や頻度を見直すべき(重点健診の採用など)、という意見が出ていました。健診内容についての文科省的な回答としては、現法律の規定通りという大前提がありますが、今年度の日本医師会学校保健委員会の諮問が「社会情勢の変容を踏まえた学校健診に関する諸課題の再検討」というテーマであり、そのワーキンググループの1つが「学校健診の見直し」だそうです。学校医の負担を軽減し、学校医は本来何をすべきか、ということを改めて検証したい、という日医の渡辺弘司常任理事の言葉に期待したいと思います。

第55回全国学校保健・学校医大会 in 宮崎 第2分科会に参加して

西京高校・宍陰小中学校医 杉本英造

1. 児童生徒の心のケア・大阪府医師会の取組み 学校実態調査から連携を考える

大阪府 森口久子

教職員、スクールカウンセラー、
学校医、地域の関係機関・医療
機関が円滑に連携するための留
意点 (QRコード1)



QRコード1

「もしかして『うつ』かも」

(中学・高校編) (QRコード2)



QRコード2

2. 不登校予防的支援「思春期のこころの学校健診」 学校医による身体症状・生活リズムへの早期介 入効果と診療連携システム 身体診察と睡眠指 導が不登校を予防できる

和歌山県 土生川千珠

令和5年小中学生は前年より13万人減少し923
万人、不登校は30万人と毎年5万人増加。不登校
のきっかけは、身体の不調・生活リズムの乱れで、
医療機関を受診できているのは14%、不登校の
40%は誰にも相談できず孤立。「思春期のこころ
の学校健診」：メンタルヘルス要支援児を検出し
学校医・かかりつけ医 (step1 身体症状への対処)
→子どもの心相談医・2次病院小児科(step2 身体
症状精査 機能的疾患)→子どものこころ専門医
・児童精神科医 (step3 発達・不登校等心身症介
入)。学校医が身体の診察と睡眠の健康教育に関
与することで子供たちの安心と自信獲得へつなが
る。

3. 中高生の自殺念慮・自傷・自殺行動の調査

一公立中学校生・全日制高校生・定時制高校生
(日本籍・外国籍)の比較一

三重県 梅本正和

定時制、通信制学校では休学・退学後に自殺増

加するため、不登校を基盤とした自殺予防対策が
重要。

4. 学校現場におけるアレルギー疾患の診断、管理 および保護者の認識に関する全県調査

～都道府県アレルギー疾患医療拠点病院による
調査～ 岐阜県 川本典生

血液検査でソバ陽性でも症状がでるのは40%
で、血液検査のみで不必要なアレルゲン除去が多
い可能性あり、プリックテスト大事。3755人の調
査で、アナフィラキシーがあると回答してエピペ
ンを所持しているのは半数で、2本処方の上、1
本は学校、1本は携帯運用が多く、学校と自宅に
保管し携帯していない人もいた。

5. 奈良県下の学校・園における食物アレルギー症 状出現時のシミュレーション研修

奈良県 南部光彦

シミュレーションをビデオ撮影し問題点を検
討。第一発見者の担任がその場を離れた。症状が
でている患児の側に1人の教員しかいない。呼吸
器症状が主でありアナフィラキシーショックでな
いののすぐに寝かせようとした。エピペンを打つ
つもりでいるため軽い症状で直ぐにエピペンを
打ってしまった。救急車を呼ぶのに職員室と現
場の連携悪く、譲り合い実際に呼ばなかった。救
急車が入る門のカギが開けられなかった。

6. 安佐コホートスタディにおける安佐地区小学6 年生の新型コロナウイルスS・N抗体の測定と 健康調査票による感染状況の検討

広島県 杉野禮俊

新型コロナ感染のみで上昇するN抗体とワクチ
ンおよび感染で上昇するS抗体の調査。

2022年12月1日～23年3月31日までの3小学
校359人の内、医療機関を受診した63人。このう
ち42人が抗体価から罹患しており、5名は感染を
自覚していなかった。

7. COVID-19パンデミック後の自律神経機能の変化 学校心臓検診における12誘導心電図の解析

宮崎県 兒玉祥彦

心拍数の増加、PR間隔の短縮、QT間隔の短縮、

左室電圧の低下が観察され、自律神経機能の交感神経系へのシフトや心電生理的機能の変化を反映していると考えられた。

8. 水戸市における中学生のピロリ検診について

茨城県 齋藤洋子

ピロリ菌は5歳位までの乳幼児期に家庭での経口感染により持続感染。2017～18年血清、20～23年尿検査施行し、陽性者は二次検査：便抗原or尿素呼気試験 陽性者は生徒と保護者相談の上、保険診療で内視鏡検査と除菌治療。6年間の対象者からの検査受診者11275名中、陽性者は465名4.1%であった。

9. 検尿判定委員会の働きかけにより受診・治療につながった糖尿病の1例

岐阜県 松隈英治

岐阜県方式学校腎臓検診システムは、緊急対応ができる、生徒任せにならず医療機関受診率の向

上、経年経過観察、ダブルチェック、受診医療機関/学校と連携が可能。

10. 福岡市における学校腎臓検診異常判定基準のアルゴリズム化と判定作業の自動化について

福岡県 郭 義胤

頻雑な判定作業をアルゴリズム化することにより判定委員の負担を軽減できた。

一次(+)→二次(+)→三次へ、一次(+)→二次(-)→異常なし、一次(+)→未検査→三次。一次(-)→二次(+)→三次、一次(-)→二次(-)→異常なし。

11. 九州学校腎臓病検診マニュアル第5版における先天性腎尿路異常スクリーニングの啓発について

佐賀県 大塚泰史

超音波検査マニュアル作成 PC スマホで九州学校健診協議会→腎臓部門で検索し、エコー検査手技を約10分で学べる動画を参照ください。

第55回全国学校保健・学校医大会 第3分科会「からだ・こころ(3)」

北野中学校医 林 鐘 声

1. 福岡県医師会における成長曲線・肥満度曲線の活用促進に関する取組みについて 福岡県
 2. 学校健診での成長曲線活用の現状とこれから九州・沖縄地区における活用推進の取り組み 福岡県
 3. 埼玉県における学校尿糖スクリーニングにおける尿糖陽性者への対応および状況把握等についての調査報告 埼玉県
 4. 2014年度～2023年度の学校検尿で新規に発症した糖尿病例について 広島県
 5. 学校検尿によって新規に診断される小児糖尿病の現状と推移 九州沖縄地区での検討について 福岡県
 6. 鹿児島市学校糖尿検診緊急対応システムの検討 鹿児島県
 7. 沖縄県の運動器検診の現状と課題について 沖縄県
 8. 福岡県における運動器検診の現状と課題九州学校検診協議会運動器部門活動報告 福岡県
 9. 埼玉県における運動器検診のアンケート調査について 埼玉県
 10. 宮崎大学における側弯症診療状況について(外来受診動機と治療状況) 宮崎県
 11. 脊椎側弯検診の是非を問う～呼吸器検診委員の立場から～ 山形県
1. 北九州市は教育委員会と医師会が主導して自治体単位で成長曲線の活用に取り組んでいるが、それ以外の福岡県内の19郡市医師会と56市町村の教育委員会では、大多数が管轄の学校における曲線の作成・活用に関与していない。そこで、令和6年3月に福岡県医師会は「成長曲線・肥満曲線の活用に関する手引き」を作成し、郡市医師会と教育委員会に対して、曲線の意義や重要性についての啓発と地域の実情に応じた体制整備の参考になるよう配布した。福岡県医師会のホームページに公開している「手引き」の内容は、京都市の活動にも有用になると期待できるものであった。
 2. 九州沖縄地区の小中学校、合計3644校にアンケート調査を行い2929校から得た回答をまとめた。曲線を作成していたのは小学校72.0%、中学校の60.7%で、小中学校とも95%の県がある

一方で、小中学校とも30%前後の県もあるなど、県による隔たりが大きいことが明らかになった。10,8%の学校は曲線作成後に何もせず、その理由としては、活用方法が分からない、相談先や相談する基準がないが、それぞれ30%を占めていた。また受診結果を把握していたのは55,5%に過ぎず、学校が78%、教育委員会が13,3%であった。対応に困っているのは、異常判定の理由や受診の必要性の説明などの医学的内容を学校で行うことであった。曲線を100%近く作成している京都市の学校においても、受診勧奨の明確な基準や受診医療機関の整備が共通の課題である。

3. ~ 6. 1992年から定期健康診断に尿糖検査が加えられたのは、糖尿病の早期発見、早期治療を目的として導入されたものである。今回3.4.5.の地域からの報告では、10万人当たりでの新規発見率はI型糖尿病では小学生0,84、1,60、1,33、中学生1,69、2,60、3,26、II型糖尿病では小学生0,56、1,30、0,74、中学生5,08、6,60、3,37であった。6.では緊急受診対象を尿糖2+以上かつ尿ケトン陽性としていたが、尿ケトン陰性であった症例が医療機関受診時には尿ケトン陽性になった事例の経験から尿糖3+以上、あるいは尿ケトン陽性、症状がある場合を対象にすると変更した。学校検尿で検査異常を指摘されても病院受診しない児童生徒は30 ~ 50%程度いる。未受診者の中に糖尿病患者が潜んではいるが、受診勧奨はなかなか進まず、未受診者の実態がよく分からない。未受診者の次の検尿検診の調査報告でもあれば、まだしも納得できるところがあると思うが、京都市でも調査は行われていない。尚、京都市の尿糖検診の結果と課題をまとめた報告は、京都市学校医会誌第28号(平成29年度)に木崎善郎先生によるものがある。
7. 8. 運動器検診の現状と課題の発表者はともに整形外科医であった。以前より脊柱側弯検診をしていた地域では、運動器検診導入に際して整形外科医が積極的に関与しているのを反映したものと推測する。九州各県の令和4年度の専門医受診率は、33,8%、31,4%、81,3%、9,7%、45,0%、38,0%、13,4%、14,0%と、県によるバラツキが大きいとともに、1県を除いては相変わらず低いものであった。最近では異常所見率や

要精検者数の低下が認められるが、その理由として保護者や学校医・養護教諭の意識の低下が関与しているとの指摘には同意するものの、9年間継続してきた検診の成果とする意見を整形外科医が表明できないのなら、残念である。

9. 埼玉県整形外科医会の会員にアンケートして回答のあった39名の取組み状況から、運動器検診の継続と質の向上には整形外科医の介入が重要であると結んでいた。19名が学校医を担当していて、学校医はしていないが検診の協力医をしているのは11名、また、一次検診に携わっているのが24名、二次検診にのみ携わっているのが10名であった。ちなみに、京都市では21名の学校医が整形外科を標榜している。
10. 昭和56年よりモアレ検診を行ってきた宮崎県でも、2021年以降は中止している。県内で唯一の側弯症手術を行っている施設に2019-2023年の5年間に初診した小学生から高校生291名(男53名、女238名)について、モアレ検診を行っていた2019-2020年をM(+群)と運動器検診のみの2021-2023年をM(-群)として分けて分析して、運動器検診の陽性的中率が低いことを明らかとした。各年の受診者数に差はなく、初診時に装具治療を選択したのはM(+群)49,5%、M(-群)47,3%、手術適応はM(+群)11,9%、M(-群)16,5%、また高校1年生時のX線検診で側弯が指摘されたのはM(+群)1,8%、M(-群)8,8%であった。
11. 山形県北村山地区の過去4年間(2018-2021)の高校1年生1520名について、検診で撮影された胸部X線写真のCobb角を呼吸器検診委員会にて計測したところ、10度以上は3,9%、4,1%、6,4%、6,0%であったのに対し、運動器検診の異常指摘率は、2,0%、0,3%、0,6%、0,6%であったことから、運動器検診は側弯検出に不十分で、胸部X線撮影かそれに代わる検診機器の導入が必要であるとしていた。来年1月に薬事承認されるスコリオマップは、AIを利用することで着衣のまま120人/時間で検査可能、20万円/月のレンタルも可能ということであった。一方、全国の教育委員会の大多数は脊柱検査に機器使用の意向を示していない。

京都市も現時点では導入しない方針である。それならば、脊柱検査に当たっては背部を露出した上での視診・前屈検査が標準であることに

留意して、それを可能とする環境整備を続ける必要がある。学校医会の調査によると、回答のあった25%の学校医が自ら衣服をめくり脊柱検査を行ったと回答していたが、それでは適切な視線・視野が確保できず正確な判定に苦労が

あったと思う。のみならず、その行為は学校医の独断的、強圧的な態度と児童生徒や保護者にとられかねない。チーム学校で検診していることを児童生徒や保護者に伝わるよう、教職員による補助を今一度徹底するよう要望する。

第55回全国学校保健・学校医大会 in 宮崎 第4分科会「耳鼻咽喉科」報告

京都府耳鼻咽喉科専門医会理事 平 杉 嘉平太

日時：令和6年11月9日（土）

場所：シーガイアコンベンションセンター

秋本番の宮崎県宮崎市にて、「未来ある子ども達のために、いま学校医ができること」をメインテーマに、対面で積極的な意見交換が行える現地開催形式（オンデマンド配信あり）で本会が開催された。第4分科会「耳鼻咽喉科」では、①～⑤は学校医を派遣する上でどのような問題・状況下に対応しているかの報告、⑥～⑫は耳鼻咽喉科学校健診・健康教育・言語聴覚士との連携に関する報告があった。学校医（健診医）の配置・確保・健診の質の担保、健診未施行地域の存在、行政側の認識力不足など、報酬の問題など、どの地域においても課題が多すぎ、解決の糸口がつかめない厳しい状況が続いている。「学校医のやりがい」に頼り切っているこの状況の改善に向けて、法改正などを念頭に上のレベルでの検討をしてもらわないと、これらの問題は解決しないように思われる。本会の演題名と研究発表者名はプログラムをご参照ください。

【班長】 宮崎大学医学部感覚運動医学講座耳鼻咽喉・頭頸部外科学分野教授 高橋 邦行
宮崎県耳鼻咽喉科医会会長 坪井 康浩

発表順	演題名	研究発表者名	
1	東京における耳鼻咽喉科学校医の現状と問題点の抽出	東京都	市川 菊乃
2	兵庫県における耳鼻咽喉科学校医派遣事業について	兵庫県	中川 伸一
3	宮崎県における耳鼻咽喉科健診の現状と問題点について	宮崎県	竹尾 輝久
4	初めての大阪府立高校耳鼻咽喉科健診—現状と担当医師の意識調査結果	大阪府	坂 哲郎
5	沖縄県における耳鼻咽喉科学校健診の現状・大きな問題点・今後について	沖縄県	真栄城徳秀
6	札幌市小中学校の耳鼻咽喉科健診結果の検討 コロナ禍の2021年～2022年の健診結果について	北海道	高木 慎夫
7	新潟県における耳鼻咽喉科学校保健の歩みと今後の課題	新潟県	大滝 一
8	教育委員会と病院耳鼻咽喉科医師・言語聴覚士との連携について	神奈川県	寺崎 雅子
9	徳島県における認定学校医研修会の役割 医師会と教育委員会の連携と養護教諭参加型健康教育の取り組みについて	徳島県	島田 亜紀
10	動画配信で健康教育を行う取り組みについて	福岡県	矢武 克之
11	就学時健診を契機に精密聴覚検査を実施した症例の検討	宮崎県	白根 美帆
12	学校健診で指摘された機能性構音障害に関する報告	東京都	木村美和子

令和6年度文部科学大臣表彰

京都市立下京中学校 眼科学校医 新井 真理



令和6年11月7日宮崎市で令和6年度全国学校保健・学校安全研究大会が開催され、学校保健関係の文部科学大臣表彰をいただきました。京都市の色覚相談事業に従事してきたことに対して頂戴したものと思っておりますが、誠に身に余る光栄なことで大変有難く心より感謝しております。

色覚相談事業は、京都市学校医会のご支持を得て、京都府眼科学校医会が京都市教育委員会に必要性を説得して平成7年に発足し現在に至っております。ここに改めて京都市学校医会の皆様のご理解ご支援に対して厚く御礼申し上げます。色覚異常の児童生徒保護者への適切な指導、学校関係者への啓発、ご紹介くださる先生方のお役に立てるよう努めてまいりますので、今後とも何卒よろしく願いいたします。

第 7 回 常任理事会

令和 6 年 12 月 7 日 於 事務局

出席者 井本会長、山内副会長、安野専務理事、西村・八田各常任理事、平杉耳鼻咽喉科専門医会理事、林議長、長村・杉本監事

会長挨拶

<報告事項>

1. 令和 6 年度全国学校保健・安全研究大会
11 / 7 ~ 11 / 8 奥村顧問、新井先生
2. 第 55 回全国学校保健・学校医大会 in 宮崎
11 / 9 井本・林・長村・杉本・奥村顧問、
(オンデマンド 11/25 ~ 12/26 平杉先生・
嶋元先生)
3. 精神衛生研究会 11 / 14 14 : 00 ~
4. 京都市学校保健研究発表会及び表彰式
11 / 16 14 : 00 ~
於：京都市総合教育センター
井本・安野
5. 色覚相談 11 / 19 1 名
6. ツベルクリン反応検査
接種 12 / 2、判定 12 / 4
於：京都市総合教育センター 長村
7. 左京南支部 P T A 指導者はぐくみ合同研修会
12 / 3 於：養正小 八田
8. 成長曲線活用の小委員会 12 / 6
於：体健室 林、木崎顧問、松尾先生
9. 令和 7 年度の学校保健会行事（予定）について
10. 令和 7 年度：指定都市（仙台）、全国（神奈川県横浜市）のご案内
11. 養徳小学校の川勝秀一先生が令和 6 年度末で
辞任
12. 砂川小学校の福島 豊先生が令和 6 年度末で
辞任
13. その他

<協議事項>

1. 心臓病相談事業の今後について
2. 思春期保健対策ネットワーク会議について
3. 成長曲線の活用について(相談事業開設等)
4. 新任校医研修会（3/13）のテキストについて
5. 複数配置・産業医等について
6. その他

<関連学会・各種協議>

1. 精神衛生研究会 12 / 12 14 : 00 ~
2. 色覚相談 12 / 17 1 名
3. ツベルクリン反応検査
接種 12 / 17、判定 12 / 19
於：元有済小学校 大久保
4. ワンポイント相談 12 / 26
14 : 00 ~ 於：事務局
5. 京都府歯科医師会・令和 7 年新年互礼会
1 / 8 13 : 00 ~
於：京都府歯科医師会 口腔保健センター
6. 第 8 回常任理事会兼新年会 1 / 11
17 : 00 ~ 於：竹茂楼
7. その他

学校医会事務局の年末年始休業期間を
下記の通りとさせていただきます。

12月28日(土) ~ 1月5日(日)
(6日から通常業務)